

ジドレ・オヴシュカイテ Zydre Ovsiuikaite

常に革新的な演奏のアイデアを模索し、新しい芸術や音楽のアプローチを探求するヴァイオリニスト。

この国際的な活動に対し、リトアニアのD.グリバウスカイテ大統領（2015年）とG.ナウセーダ大統領（2020年）から、国際的なデビューと成果の成功に対する公式な賛辞を受ける。

第7回あおによし音楽コンクール奈良 プロステージ第1位・グランプリ、第20回大阪国際音楽コンクール年齢G部門第2位、第29回日本クラシック音楽コンクール第4位、リトアニア室内楽コンクール第1位、第7回S.ヴァイニユナス国際室内楽コンクール第3位・特別賞など、ヨーロッパや日本の数多くの国際コンクールで上位受賞。

2021-2022年のシーズンでは、金沢市民芸術村のアーティスト・イン・レジデンスとして活動中。オーケストラでの経験は、2016-2017年シーズンにヴィリニユス国立セント・クリストファー室内管弦楽団（芸術監督：D.カトゥクス）のコンサートミストレスを、2021年にはダヴォス・フェスティバル2021でダヴォス・カメラータのコンサートマスターを務める。

ソリストとしては、クライペイダ室内管弦楽団、カウナス・ユース室内管弦楽団、ヴィリニユス州立セント・クリストファー室内管弦楽団、リトアニア音楽演劇アカデミー交響楽団と演奏している。

また、P.ムンテアヌ、S.マロフ、J.マイルス、A.コユムジャン、A.バラホフスキー、B.ガーリキー、A.ミッター教授、M.イウラト、神谷美千子、原田幸一郎 各氏にプライベートレッスンやマスタークラスにて師事。ドイツ、イタリア、スウェーデン、オーストリアなどヨーロッパ各地で開催されたマスタークラスにも参加。

最近では、他芸術とのコラボレーションや現代音楽に興味を持つ。日本に在住していることもあり、日本の作曲家の見聞を広め、クラシックや現代音楽と伝統芸術や日本の伝統的な楽器、更にはリトアニアの文化や音楽を融合させた表現を探究している。

音楽家の家庭に生まれ、幼い頃からバイオリンを習い始め、2011年に国立M.K.チュルリョーニス芸術学校を卒業。2015年にリトアニア音楽演劇アカデミー（LMTA）に於いてパフォーミング・オブ・アーツの学士号を、2017年にはパフォーミング・オブ・アーツ ソロ・バイオリンの修士号を取得している。